

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100629		
法人名	社会福祉法人椿寿会		
事業所名	シニアレジデンスつばき		
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町才羽2123		
自己評価作成日	平成29年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成29年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は広い田園に囲まれた静かな場所に立地している為、天気の良い日には季節の風景を見ながら散歩をしたり、敷地内での外気浴を楽しんでいます。季節毎には納涼祭やクリスマス会などのイベントを行っております。なかでも納涼祭の最後に見るアグリパークの花火はご利用者様、ご家族様共にゆっくりと椅子に座り真正面に見えることから大変喜ばれております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・季節ごと花見に出かけたり、納涼祭やクリスマス会、土用にはうなぎ、祝事には寿司を出前されるほか、毎月利用者といっしょに季節感溢れる室内装飾づくりを行なうなど、季節を感じながら楽しく、穏やかに過ごされるよう支援に取り組まれている。
 ・運営推進会議では、利用者の誤嚥防止対策などの健康管理やレクリエーション開催日程の情報提供をいただくなど、幅広い内容で意見交換が行われ、サービスの向上に活かされている。
 ・目標達成計画の達成状況については、定期訓練ではおんぶをしたり、職員2人で抱えるなど要支援者の具体的な搬送訓練に取り組まれたり、水害発生時の避難方法や避難経路の検討など、体制整備に努められていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申送り後、全員で介護理念を唱和している。	「季節を感じることの出来る生活作りを支援します・日常生活の中で、身体機能の維持が出来るように支援します」などの理念のもと、コミュニケーションを大切に、健康・安心・安全で、楽しく過ごされるよう、利用者本位のサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	杉戸ピアのサマーコンサートに入居者様の作品を出展し見学に行っている。散歩の際には、畑にいらっしゃる方や近所の方と挨拶し会話を楽しんでいる。お花や作物を頂く事もある。	散歩や買物など、外出の際には地域の方と挨拶を交わされたり、地域の集いや事業所催事でも地域の方やボランティアとの交流をされるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に1度の運営推進会議を通して、役場、地域の方、ご家族に更に理解を深めて頂けるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見、質問等を職員と共に検討し、その後の介護に活かせる様努めている。	運営推進会議では、事業所から利用者の生活振りや健康管理のほか、誤嚥防止対策や介護相談事例、地域の情報提供など、幅広い内容での意見交換が行われ、有意義な会議運営をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場にて連絡、相談、報告等を行い、その時々に適した助言や指導を頂いている。	行政の担当者からは運営推進会議でアドバイスを頂いたり、報告・相談・申請手続きの際や事業所連絡会議などでコミュニケーションを図られ、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月会議を開き、身体拘束についての理解を深めている。玄関にはセンサーを設置し対応している。	定期的に事業所全体での研修が行われ、全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を勉強され、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが虐待を行わないよう注意し、職員同士もお互いに注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様への理解を職員が深める様、日々話し合い努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については見学の際に十分に説明し、疑問などを尋ね理解して頂き納得して契約に望んでいる。解約時には現在の状況を説明し理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や質問を検討し、入居者様の生活に生かしている。	「ラーメンを食べたい、おやつが欲しい」、「洋服を買いに出かけたい」など、利用者個々の希望に応えられている。家族とは面会時に意見・要望を聴き取り、職員間で話し合い、事業所運営や日常のケアに反映をされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の担当者会議やリーダー会議において、職員の意見、提案、希望等を聞いている。	定例会議では、発言し易い環境のもと活発に提案や意見交換が行われ、個別ケア計画やイベント企画、室内装飾づくりなど、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得へのスクーリング出席等促し、シフト面でも考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には出来るだけ参加できるように考慮し、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見交換の場として、町の事業者連絡会議や地域包括などが行う街カフェなどに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今現在困っていること、不安に思われていることを良くお聞きし、少しでも軽減できるようにお話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂きながら、困っている事や不安なこと、要望等を良くお聞きし、十分な説明を行い信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様の要望をお伺いし、その中で必要な支援が選択できる様努め、助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事については行って頂き、支援が必要な部分については一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事等で近況報告し理解して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会時には、明るい挨拶を心がけ、又来て頂けるよう声掛けをしている。	コーラスサークルの仲間やご近所の方が面会に来て下さるほか、地域の集いに出かけ顔馴染みと談笑されたり、馴染みの店での買物や外食など、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や行動を読みとって無理のない関係が保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係を断ち切らないよう「いつでもお寄り下さい」と声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望に添えるよう意向を聞いている。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、寄り添うことで、思いや意向を把握されている。意思疎通が困難な利用者についても言葉や表情・仕草などから汲み取るよう努め、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、入居者様から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、個人記録に記録し、朝夕の申送りにて共有している。職員間では情報を細かくノートに記入して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議で見直し改善を行っている。	利用者や家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師の指示を含め、関係する職員で意見交換を行ない、その人らしさを大切に、現状に即した支援計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録に毎日の様子、変化や気付いたことを記入し、職員間で共有見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じ、受診や買物など直ぐに対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用で体操や行事などを楽しんで参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り希望を聞き入れ、今までのかかりつけ医を継続して頂いている。又変更する場合には情報提供を求めている。	利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本とし、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なわれるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないので、協力病院に毎日のバイタル、食事量、水分量をFAXし助言を求めている。体調不良の場合には、その都度連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き、情報収集している。ご家族様からは、入院計画書等の情報を求めている。入居様が安心して戻れるよう声掛けをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画時にご意向を伺って説明している。重度化した場合には主治医から説明や指示を受け、ご家族と方向性を見つけられる様支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一をされている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師との連携のもと、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時はマニュアルに基づき対応している。又いつでも見える所に掲示し、職員が素早く動けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、日中、夜間とどちらでも動けるよう訓練している。また災害時相互援助協定書があり、同法人より援助が可能となっている。	定期訓練では夜間に厨房からの火災発生を想定し、初期消火・通報・避難誘導のほか、要支援者の具体的な搬送訓練に取り組まれている。また、水害発生時の避難方法や避難経路の検討など、体制整備に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応に注意しながら、職員同士でも注意するよう努めている。	敬語づかいを基本とし、馴れ合いにならぬ言葉掛けなど、利用者の人格を尊重した対応、プライバシーや羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の重いが汲み取れる様努め、自ら決定出気安いように言葉掛けや対応に考慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に添えるよう、一人ひとりの生活のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回床屋さんに来て頂いている。季節に合ったコーディネートが出来るよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きを行って頂いたり、テーブル拭きや下膳などは積極的に入居者様が行っている。	利用者個々の力に合わせ、食事の下拵えや後片付けなど職員と共に行っている。催事時には好物の寿司が提供されたり、希望に沿い鰻を出前したり、おはぎづくりを楽しまれるなど、食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態を工夫して一人ひとりに合わせている。毎回食事量、水分量を記録している。メニューもカロリー計算された業者の物を使用し//テーブルで食する事で利用者さまの変化に気付けるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし居室にて行っている。見守りが必要な利用者さまとはホールにて毎食後行い、口腔内を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は必要に応じて対応している。オムツ使用の入居者様においては定時対応をし清潔に努めている。	出来る限りオムツの使用をすることなく、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表に記入し把握している。必要に応じて医師処方薬を服用しているが、自然排便が促されるよう散歩や体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ユニット毎にお風呂があるのでゆっくりと入浴出来ている。一人ひとりに合わせて入浴日を決めているが、入居者様の状態により交替になることがある。	入浴拒否の方には声をかける職員や時間を変えるなど工夫をし、無理強いしないよう対応をされている。また、利用者個々の状態に合わせ、職員複数での介助体制をひいたり、ヒートショック対策など、安全対策が取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて寝具等の交換などを職員と一緒にやっている。休息も各自居室で取られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の使用している薬を職員が把握すると共に毎食後手渡しにて服用して頂いている。服用後の空袋も他の職員が確認をしている。変更があれば申送り、服用後の利用者様に変化がないかどうか様子を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物畳み、テーブル拭き、食器拭き等お願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった日や天気の良い日には戸外に出られるよう心掛けている。地域のサマーコンサートなどに掛ける等気分転換を図っている。	事業所周辺での散歩や庭での外気浴、買物や外食など楽しまれているほか、隣接法人他事業所で園児と一緒に踊りや歌をしまれたり、花見や地域のイベントなどに出かけられるなど、利用者の希望を大切にしたい支援が行われている。	アンケート結果から、利用者の健康状態や暮らし振りなどについて、一部ご家族の理解が得られておらず、事業所の取り組みについて、すべてのご家族に向け情報発信を行ない、日常生活振りへの理解を深めていただく取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いについては、事務所で管理している。希望があればいつでも使用できることを本人に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話を使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るように掲示物に工夫をしている。入居者様と一緒に作品作りを行い親睦を深めている。テーブルの配置に気配りをし転倒防止に努めている。	リビングルームには雪だるまやトナカイに引かれる橇に乗ったサンタクロースが装飾されているほか、クリスマスツリーが置かれ、利用者が季節を感じ、気持ち良く過ごせるよう工夫をされている。また、毎日掃除の時間が設けられ、居室を含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が楽しく会話出来る様、テーブル席に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりに合わせた居室作りを心掛けている。使い慣れた物を持参され置くことが出来る。壁などには作品や自分の好きな物を飾っている。	馴染みの寝具、好みの家具や可愛い子犬の写真が飾られるなど、居心地良い居室空間が造られている。また、利用者の状態に合わせ、設えのあるトイレや洗面設備にベッドを寄せて配置するなど、安全対策が取られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が一目で分かるように名札を掛けている。手すりを設置し転倒防止に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名: シニアレジデンスつばき

目標達成計画

作成日: 平成 30 年 1 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者の健康状態、暮らしぶりなど、情報発信が不足している。	外出だけでなく、日々のご様子を知っていたできるようにする。	月に一度のお手紙に外出時やレクリエーション時の写真を添付し、様子を知っていただく。年間の行事予定表を年度初めに知らせる。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。